

平成27年11月26日
J R 北 海 道

平成27年10月28日に開催しました「第8回JR北海道再生推進会議」の議事概要を添付のとおり取りまとめましたのでお知らせします。

第8回 JR 北海道再生推進会議 議事概要

1. 日 時 平成 27 年 10 月 28 日（水） 13 時 55 分～15 時 38 分

2. 場 所 JR 北海道 追分工務所 会議室

3. 出席者

(1) 議長・委員 宮原耕治議長、桶谷治委員、上浦正樹委員、國廣正委員、高向巖委員、向殿政男委員、高橋はるみ委員代理荒川裕生北海道副知事

(2) オブザーバー 国土交通省 武藤浩国土交通審議官、藤田耕三鉄道局長、川勝敏弘北海道運輸局長

(3) JR 北海道 須田征男会長、島田修社長、西野史尚副社長、小山俊幸常務、山口力常務、田畑正信常務、綿貫泰之総務部長、瀧本峰男総合企画本部副本部長、宮越宏幸運輸部長、木元剛経営企画部長、川戸俊美安全推進部長、戸川達雄企画室長、土島一幸駅業務部長、難波寿雄車両部長、坂本孝司工務部長、土田徳造電気部長

4. 議事概要

(1) 社長冒頭挨拶

議事開始の前に社長の島田より「前は5月に会議があり、6月には提言書を頂戴した。今後は、年2回提言書を受けた取り組みについてモニタリングを行っていただくことになると思う。提言書を受けた取り組みのうち、講ずべき措置の計画として取り組んでいるものは一定の進展があるが、それ以外のものについてはこれから取り組んでいかなければならないものがたくさんある。本日は、現在進めている提言書を受けた取り組みについてご意見をいただき、より具体的な計画にしていきたいと考えているので、よろしく願い申し上げます。」との主旨の挨拶があった。

議長により議事が開始した。

(2) 「JR 北海道再生のための提言書」を受けた取り組みについて

会社側から、提言書を踏まえて開催される地域の公共交通を検討する会議、地方閑散線区に関する取り組み、安全に関する取り組みとして「措置を講ずるための計画」の進捗状況及び「安全投資と修繕に関する5年間の計画」の進捗状況、コンプライアンスに関する取り組み及び「JR 北海道再生のための提言書」を受けた実行計画の進捗状況について、資料に基づいて説明した。

説明の後、委員から次のようなご意見があった。

- 現在の JR 北海道の状況は四面楚歌であると感じており、利用者をはじめ道民に JR 北海道の現状と提言書の持つ意味を正しく理解してもらうことが必要である。
- 線区ごとの利用状況などの経営情報を具体的かつ積極的に繰り返し提供していくことが極めて重要だ。その際、情報提供が不十分となってはならない。
- 線区別の収支には、老朽化した土木構造物等の更新にかかる費用の概算を併記し、公表することが大事だ。重要なことを示すことができなくならないよう、まずは大掴みでもよいので、線区の実態を理解してもらうことを目標にすべきである。
- 間接コストを含めたトータルコストで収支を公表すべきである。
- 今は、規模を縮小する議論ばかりであるが、今後は、例えば新幹線開業が地元経済にどのように役立つのかというプラス側を PR するなど、将来に対する夢を道民に示すことも大事である。

(3) 「JR 日高線検討会議」における検討状況について

会社側からの資料説明の後、委員から次のようなご意見があった。

- 災害復旧の工事費について、具体的な金額が示されているが、これらの額で線区全体の安全を確保できるわけではないので、誤解を招きかねない。情報の出し方として適切でないのではないかと。
また、先の台風で新たに被災した箇所への復旧にかかる金額を明らかにしたうえで、議論すべきである。
- 災害復旧を議論するにあたり、議論が終わった後に、実はまだ費用がかかるということがないように、現在の状況を明らかにしておくべきである。
- 地域公共交通検討会議は、北海道全体について議論し方向性を出す場ということだが、日高線の問題は地域公共交通検討会議で適切に議論されるべき事案であると考えている。
- 日高線は線路が海岸に近接しており、線路を陸側に移設するなど抜本的な対策が行われない限り災害の発生が常態化すると考えられるが、その抜本策について議論されていない。
- 日高線の問題はまさに北海道の鉄道の典型的な課題であり、近視眼的ではない解決策を国や道も一緒になり見つけていただきたい。
- 鉄道事業の大前提である安全の確保ができるのかを意識すべきだ。

- 地域公共交通検討会議の主催者としては、地域公共交通検討会議は個別線区の議論をするのではなく、幅広く交通に関する意見を求める場としたいと考えている。
- 全国には、乗客の利用が少なく、災害を契機に地域交通のあり方が議論となっている線区がいくつかあるが、地元の意向も聞きながら丁寧に議論を進めて行く必要がある。

(4) その他

- 先般、新幹線の収支が年間 50 億円赤字になると報道があった。新幹線のことだけを考えるとそのとおりのかもしれないが、JR 北海道としても地域経済にはプラスになる点については是非言及していただきたい。